

長野高専平成27年度計画の策定項目

※ 策定項目については、全国高専一律 掲載頁

【1. 教育に関する事項】

(1) 入学者の確保	3～
1 適切な入試実施への取組計画	
2 志願者の質の維持及び志願者確保のための取組計画、入試広報の実施計画	
3 女子学生志願者の確保への取組計画	
4 その他	
(2) 教育課程の編成	4～
1 中長期(5～10年程度)の高専の将来構想、教育課程の改善の検討及び必要な措置	
2 英語力向上に関する取組計画	
3 学習到達度試験の活用計画	
4 専攻科の充実を図る計画	
5 社会奉仕体験活動や自然体験活動等の参加・取組計画	
(3) 優れた教員の確保	6～
1 近隣大学等が実施するFDセミナー、地元教育委員会等が実施する高等学校の教員を対象とする研修、企業や技術士会等を利用した教員を対象とする能力向上に資する研修への参加・実施計画	
2 優れた教員の確保や教員のキャリアパス形成のための取組計画	
3 女性教員採用・登用についての具体的な取組計画(施設整備を含む)	
4 教員FDの取組計画	
5 他機関との教員交流	
(4) 教育の質の向上・改善	7～
1 モデルコアカリキュラム(試案)を踏まえたカリキュラム・授業内容見直しへの計画 <H27新規事項>	
2 アクティブラーニングによる学生の主体的な学びへ向けた計画 <H27新規事項>	
3 ルーブリック等による学生の到達目標を設定した授業内容見直しと授業実践の計画 <H27新規事項>	
4 ICT活用教材や教育方法の開発、利活用計画	
5 特色ある優れた教育実践や取組計画 <H27新規事項>	
6 自己点検評価への取組計画	
7 JABEE認定、機関別認証評価への取組計画	
8 インターンシップの実施計画	
9 企業人材等を活用した共同教育の取組計画	
10 ICT活用教育に必要な構内情報基盤の整備計画	
(5) 学生支援・生活支援	10～
1 メンタルヘルスについての取組計画	
2 就学支援・生活支援の取組計画	
3 キャリア形成支援についての取組計画(女子学生に対する取組を含む)	
4 高い就職率を確保するための取組計画	
5 寄宿舍等の学生支援施設の整備計画	
(6) 教育環境の整備・活用	12～
1 施設マネジメントの取組状況	
2 施設整備計画(耐震化、老朽化対策、キャンパスマスタープラン・バリアフリー計画の見直し等)	
3 環境配慮への取組計画	
4 男女共同参画に関する意識啓発等ワーク・ライフ・バランスを推進するための取組計画 <H27新規事項>	
5 その他	

【2. 研究に関する事項】	15～
1 外部資金獲得への取組計画	
2 産学連携についての取組計画	
3 知財管理についての取組計画	
4 地域技術者育成への貢献(社会人の学び直し等)	
5 小中学校と連携した理科教育支援への取組計画	
6 地域共同テクノセンター等の活用計画	
7 その他	
【3. 国際交流等に関する事項】	17～
1 国際交流協定の締結	
2 学生の海外派遣計画	
3 留学生の受入体制の強化計画 (留学生用の居室整備またはこれに類するものを含む)	
4 外国人留学生に対する研修の実施計画	
【4. 管理運営に関する事項】	18～
1 危機管理への対応	
2 校内の監査体制、監事監査・内部監査及び高専相互会計内部監査の指摘・改善等への対応	
3 公的研究費のガイドラインに対する取組措置状況	
4 教職員の服務監督・健康管理・コンプライアンス意識の向上に関する取組計画	
5 職員に対する研修の実施・参加計画(国、地方自治体、国立大学、企業等が実施する研修等の活用を含む。)	
6 人事交流計画	
7 資産の有効活用方策、IT資産の管理	
【5. 業務運営の効率化に関する事項】	21～
1 一般管理費の縮減取組計画	
2 随意契約の見直し状況	

長野工業高等専門学校年度の年度計画に係る実績報告（平成 27 年度）

【1. 教育に関する事項】

1－（1） 入学者の確保

1－（1）－1 適切な入試実施への取組計画

○平成 23 年度より順次変更した入試制度の検証を行う。
・これまで行ってきた平成 23 年度に変更した推薦選抜の方法及び平成 24 年度に変更した学力選抜方法についての効果を追跡調査し、分析を行う。

（実績報告）

○平成 23 年度より順次変更した入試制度の検証を、次のように実施した。
・傾斜配点することで、本校が理工学系であることの意味表示を行い、入学希望者への定着ができたことを、進学説明会等で確認した。

1－（1）－2 志願者の質の維持及び志願者確保のための取組計画，入試広報の実施計画

○多くの入学志願者を募るため、本校の特色を中学校関係者（中学生，保護者，中学校教員）に発信するとともに、中学校訪問を積極的に実施する。

- ・長野県内の 4 か所の検査場別受験者数を分析し、受験者が少ない地区を後援会と協力して高専の PR を行う。
- ・ホームページを更新し、学校の PR を行う。
- ・中学校関係者を集めた説明会を行う。

（実績報告）

○多くの入学志願者を募るため、本校の特色を中学校関係者（中学生，保護者，中学校教員）に次のように発信した。
・長野県内の 4 か所の検査場別受験者数を分析した。受験者が少ない伊那地区後援会と協力して高専の PR を行った。
・ホームページを更新・充実し、学校の PR を行った。
・7～8 月に長野，諏訪，上田，下伊那，佐久において、中学校関係者を集め学校説明会を行った。また、長野，松本，上田地区の進学塾に出向き、学校説明を行った。

1－（1）－3 女子学生志願者の確保への取組計画

○理科系科目に興味のある女子学生を確保するための方策を検討する。
・女子学生を対象とした教育プログラムや女子学生の活躍を積極的に中学校関係者に広報する。
・女子学生の進路を含めた本校の特色を中学校関係者に広報する。
・一日体験入学，科学イベントに本校の女子学生を積極的に活用し，女子中学生とのコミュニケーションをとる機会を増やす。

（実績報告）

○理科系科目に興味のある女子学生を確保するための取組みを次のとおり実施した。
・学校説明会，後援会，各種イベントにおいて高専機構が作成した「きらきら高専ガール」のパンフレットを配布し，女子学生の活躍及び本校卒業生の情報を積極的に中学校関係者に広報した。
・一日体験入学，科学イベントに本校の女子学生を積極的に活用し，女子中学生とのコミュニケーションを図った。

1－(1)－4 その他

- 学力の高い学生を確保する方策の検討を行う。
 - ・入学者選抜結果の分析を行い、各地区の特徴を明らかにするとともに、入学志願者の少ない地域への効果的な広報体制を検討する。
 - ・変更した推薦選抜方法及び学力選抜方法の効果について追跡調査を行う。

(実績報告)

- 学力の高い学生を確保する方策の検討を行った。
 - ・入学者選抜結果の効果的な分析法の検討を継続している。
 - ・変更した推薦選抜方法及び学力選抜方法の効果について追跡調査の実施を検討し、ボーダーで入学した学生の追跡調査をすることとした。

1－(2) 教育課程の編成

1－(2)－1 中長期(5～10年程度)の高専の将来構想、教育課程の改善の検討及び必要な措置

- 学力向上のための教育課程の改善を検討する。
 - ・学修単位制度の導入を進める。
 - ・選択科目の効果的な運用を行う。

(実績報告)

- 学力向上のため教育課程の改善を次のとおり検討し実施した。
 - ・来年度に向けて大幅な学修単位制度の導入を検討し、平成28年度から実施することとした。
 - ・選択科目の選択に Blackboard を用いることにより事務効率が上がり、効果的な運用ができるようになった。

1－(2)－2 英語力向上に関する取組計画

- 修得した英語力を実践で活用し、自己評価できる教育方法を検討する。
 - ・海外インターンシップ、海外研修を実施する。

(実績報告)

- 修得した英語力を実践で活用し、自己評価できる教育方法を検討し、本科、専攻科において海外インターンシップ、海外研修を7か国、37人の学生が参加し実施した。
- 外部検定試験の受験を奨励し、実用英語検定2級の合格者は今年度も20名を超えている。成績優秀団体として高等専門学校の一部で3年連続して文部科学大臣賞を受賞した。

1－(2)－3 学習到達度試験の活用計画

- 学習到達度試験結果の活用を検討する。
 - ・アクティブ・ラーニングを導入し、学生の主体的学習を進める。
 - ・成績上位者50名の氏名を掲示することで学生のモチベーションを高める。

(実績報告)

- 学習到達度試験結果の活用を検討し、次のとおり実施した。
 - ・アクティブ・ラーニング及び学生の主体的学習の推進を今年度の教育の重点項目に定め、教員に周知した。
 - ・6月及び9月に実施した授業公開において、参観推奨授業を教員に示し、アクティブ・ラーニングの推進を行った。
 - ・9月にアクティブ・ラーニングに関する講習会を全教員を対象に開催し、実践に取り入れられる

ようにした。

- ・実力テストの成績上位者 50 名の氏名を掲示し、学生のモチベーションを高めるよう努めた。

1 - (2) - 4 専攻科の充実を図る計画

- 認定専攻科に係る教育実施状況等の審査の申出を行う（5月）。
- 特例適用認定専攻科の変更届を行う（9月）。
- 学生のニーズに応じ、効率的かつ効果的なカリキュラムで学べることができるコース制の導入を検討する。
- 5年目となる「マイコン応用」の実施状況を見極めながら、JABEE 対応も考慮し、当該科目の 2 専攻共通専門科目への展開について検討する。
- 専攻科のエンジニアリングデザイン科目として実施する「機能デザイン」の内容の充実を図る。従来不足していた、商品企画・コスト・市場等について、部分的に企業に非常勤講師を依頼する。この実施状況を確認しつつ、本校としてのエンジニアリングデザイン教育の検討を継続する。
- グローバルコミュニケーションの能力・知識を養うため、海外長期インターンシップ参加及び英語での研究発表等について推進する。

(実績報告)

- 認定専攻科に係る教育実施状況等の審査の申出を行い（5月）、認定された（2月）。
- 特例適用専攻科の変更の届出を行い（9月）、一部認定された（12月）。
- 特例適用専攻科の補正審査の申出を行い（12月）、一部認定された（3月）。
- 学生のニーズに応じ、効率的かつ効果的なカリキュラムで学べることができるコース制の導入を検討した。
- 5年目となる「マイコン応用」の実施状況を見極めながら、JABEE 対応も考慮し、当該科目の 2 専攻共通専門科目への展開について検討した。
- 専攻科のエンジニアリングデザイン科目として実施する「機能デザイン」の内容の充実を図った。従来不足していた、商品企画・コスト・市場等について、部分的に企業に非常勤の講師を依頼した。この実施状況を確認しつつ、本校としてのエンジニアリングデザイン教育の検討を継続した。
- グローバルコミュニケーションの能力・知識を養うため、9名の海外長期インターンシップ参加及び英語での研究発表等について推進した。

1 - (2) - 5 社会奉仕体験活動や自然体験活動等の参加・取組計画

(社会奉仕体験活動や自然体験活動等の教育への導入を検討する。)

- 社会奉仕活動及び自然体験活動の教育への導入を推進する。
 - ・特別活動における社会奉仕活動及び自然体験活動の導入を検討する。

(実績報告)

- 社会奉仕活動及び自然体験活動の教育への導入を推進し、次のように実施した。
 - ・「長野市放課後子ども総合プラン」に 22 名がアドバイザー登録し、主に若槻地区と三輪地区で活動に参加した。
 - ・21名の学生が清泉女学院短大生 2名と協力して、廃棄自転車を緑色に塗装し、みどりの自転車として NPO 法人に寄贈した。これらの自転車は、長野市内で観光客などに無料で貸し出されている。
 - ・「善光寺御開帳 2015 日本一の門前町大縁日」に吹奏楽部とアカペラ同好会が参加した。
 - ・「第 17 回長野マラソン」に審判員として 10 名が協力した。また、吹奏楽部がフィニッシュ会場でファンファーレを演奏し会場を盛り上げた。
 - ・若槻地区「第 5 回ふるさと若槻ふれあいコンサート」に吹奏楽部及び邦楽部並びにアカペラ同好会が参加した。
 - ・古里地区「やさしさとふれあいのつどい」に邦楽部とアカペラ同好会が参加した。

- ・「ウェルカム三才児まつり」にボランティアとして5名の学生が参加した。
- ・「響つないで」長野市民フェスティバルにアカペラ同好会が参加した。
- ・学生会が主体となり、10月の学園祭及び定期的（月1回程度）に献血活動を行った。この形で長年にわたり学生会が献血活動を実施してきたことが認められ、長野地域献血推進協議会総会で、保健衛生功労者（長野県知事表彰）として表彰された。

1－（3） 優れた教員の確保

1－（3）－1

近隣大学等が実施するFDセミナー、地元教育委員会等が実施する高等学校の教員を対象とする研修、企業や技術士会等を利用した教員を対象とする能力向上に資する研修への参加・実施計画

- 教員の能力向上に資すると認められる研修会に係る情報の収集と提供を行い、参加経費の支援も検討し積極的な参加を促す。
- 外部機関、民間企業・団体の主催する研修会・セミナーへ教員を派遣し、技術教育及び教育方法の能力向上を図る。

（実績報告）

- 研修情報を常に把握し、研修内容に応じて、グループウェア等で広く情報提供している。また、適任と認められる者に対して情報提供するなど、的確に参加を促す対応をしている。なお、業務上の有効性が認められる研修の参加費は、原則として校費負担としている。
- 民間企業の子会社主催の研修会に参加した。
 - ・オムロン（株）：前期「制御技術セミナー（基礎コース）」、後期「制御技術セミナー（基礎コース・応用コース）」

1－（3）－2 優れた教員の確保や教員のキャリアパス形成のための取組計画

- 専門科目（理系の一般科目を含む）にあつては、博士の学位を有する者、技術士等の職業上の高度な資格を有する者及び民間企業等の経験を通して高度な実務能力を有する者等、一般科目にあつては、修士以上の学位を有する者及び教育機関の経験を有する者等、優れた能力を有する者の採用の促進を図る。
- 毎年実施される校長との面談において、将来の目的やキャリアプランを具体化し、明確化する。
- 在外研究員及び内地研究員の各制度に基づく派遣を積極的に推進する。

（実績報告）

- 平成27年7月1日付けで、専門科目に、博士（工学）の学位を持ち、大手電機メーカーで技術系管理職を務め、高度な実務能力を有する者を採用した。また、一般科目において、修士（教育学）の学位を持ち、中学校教員を務めていた者を平成28年4月1日付け採用内定とした。同じく、一般科目において博士（理学）を取得している者を平成28年4月1日付け採用内定とし、計画に則した人材確保ができた。次年度以降の教員採用でも、同様な人材の確保を行っていく方針である。
- 教員と校長の面談を7月に実施し、個々の教員の将来構想やキャリアプランの具体化、明確化に関して、相互に確認を行った。今後も毎年度継続して実施する予定である。
- 在外研究員の希望者はいなかったが、内地研究員については、平成28年4月1日～平成29年3月31日の1年間大阪大学へ専門科目の若手教員を派遣することを決定した。派遣される者には、この機会に博士の学位を取得させる予定である。なお、平成27年度は科学研究費補助金の研究により、ドイツ連邦共和国に教員1名を11か月間派遣した。

1－(3)－3 女性教員採用・登用についての具体的な取組計画（施設整備を含む）

○前年度に引き続き、平成 27 年度に実施する教員公募においても、女性限定公募または女性優先公募として実施し、女性教員の採用を一層推進する。

（実績報告）

○前年度に引き続き、今年度もすべての教員公募において、女性優先にて募集を実施した。次年度以降も女性限定又は女性優先で公募を行っていく予定である。

1－(3)－4 教員FDの取組み計画

○教員の能力向上を目的としたFD研修会を以下の内容で数回開催する。

- ・科学研究費補助金等の外部資金獲得のための研修会を実施する。
- ・低学年の学生指導（クラス運営，生活指導）の研修会を実施する。

（実績報告）

○教員の能力向上を目的としたFD研修会を次のとおり開催した。

- ・「科研費獲得の方法とコツ」（6月10日）参加者63名
- ・「アクティブラーニングの実践に向けて「学生参加を促す質問技術」（9月18日）参加者46名，講師は，（株）ICCラーニングの鹿野晴夫氏に依頼した。
- ・「KOSEN 発 ”イノベーティブ・ジャパン” プロジェクト「高専卒業生キャリア調査」結果について」（12月4日）参加者54名
- ・低学年の学生指導（クラス運営，生活指導）の研修会については次年度開催で引き続き検討中である。

○教員がAL研修会へ参加した。

- ・本校の教員2名が，1月に開催した「アクティブラーニング（AL）トレーナー教員研修会」に参加した。

1－(3)－5 他機関との教員交流

○高専・両技科大間交流制度に基づく教員交流を一層推進する。

（実績報告）

○高専・両技科大間交流制度に基づく教員交流は，来年度においては適任者がいなかったため交流を見送ることとしたが，引き続き，希望を考慮しつつ戦略的な交流の検討を行う。

1－(4) 教育の質の向上・改善

1－(4)－1モデルコアカリキュラム（試案）を踏まえたカリキュラム・授業内容見直しへの計画

○モデルコアカリキュラムに対応したカリキュラムの確認を実施する。

- ・モデルコアカリキュラムへの対応を調査する。
- ・昨年度モデルコアカリキュラムに対応させた科目を実施する。
（専攻科）・シラバスの内容とのマッチングを行い，モデルコアカリキュラムに対応していない項目について検討を行う。

（実績報告）

○モデルコアカリキュラムに対応したカリキュラムの確認をし，次のとおり実施した。

- ・昨年度実施した開設科目とモデルコアカリキュラムの対応の確認をもとに授業を実施した。
（専攻科）・シラバスの内容とのマッチングを行い，モデルコアカリキュラムに対応していない項目について検討を行った。

1－(4)－2 アクティブ・ラーニングによる学生の主体的な学びへ向けた計画

- 学生の積極的な授業への参加と学習意欲の向上を図る。
 - ・対話型授業やアクティブ・ラーニングの導入を、今年度の重点項目とする。
 - ・学生との信頼関係を醸成する。

(実績報告)

- 学生の積極的な授業への参加と学習意欲の向上を促すため、次のとおり実施した。
 - ・対話型授業やアクティブ・ラーニングの導入を今年度の教育の重点項目とし、学生に提示した。
 - ・学生に対し真摯な対応を行うことを心がけ、学生との信頼関係の醸成に努めた。

1－(4)－3 ルーブリック等による学生の到達目標を設定した授業内容見直しと授業実践の計画

- ルーブリック評価等の導入を検討する。
 - ・モデルコアカリキュラムの科目レベルを決める。
 - ・レベルを決めた科目の中からルーブリック評価の導入を検討する。(専攻科) ○ルーブリック形式により個人面談を行い、その活用を検討する。

(実績報告)

- 次のようにルーブリック評価等の導入を行った。
 - ・来年度の Web シラバスの導入により、モデルコアカリキュラムの科目レベルを定めることとし、再来年度から実施することとした。
 - ・一部の選択科目の中でルーブリック評価を導入した。(専攻科) ○ルーブリック形式により個人面談を行い、その活用を検討した。エンジニアリングデザイン、海外研修等にもルーブリック評価を利用している。

1－(4)－4 ICT 活用教材や教育方法の開発、利活用計画

- 実践的能力を身に付けるための教材の開発や教育方法の利活用を検討する。
 - ・専門科目における実践的能力を身に付けるための教材を検討する。
 - ・Blackboard の利用を検討する。

(実績報告)

- 実践的能力を身に付けるための教材の開発や教育方法の利活用を検討し、次のとおり実施した。
 - ・ICT 教材作成プロジェクトの連携校として昨年度教材の開発を行った。今後活用を行う予定である。
 - ・Blackboard の教職員、学生を登録し、使用環境を整えた。また、12月に Blackboard の講習会を開催するなどし、今後の普及に努めた。

1－(4)－5 特色ある優れた教育実践や取組計画

- 新規に開設したエンジニアリングデザイン教育、キャリア教育等の選択科目を中心に、特色ある教育を実践する。
- 「学外実習」において海外長期インターンシップが 2 年目を迎え、「実践工学演習」を有機的にリンクさせ、タイ及び台湾等におけるエンジニアリングデザイン教育の充実を展開する。[一部 1-(2)-4 の再掲]

(実績報告)

- 新規に開設したエンジニアリングデザイン教育、キャリア教育等の選択科目の運用を行い、特色ある教育を実践した。
- (専攻科) ○「学外実習」において海外長期インターンシップが 2 年目を迎え、「実践工学演習」を有機的にリンクさせ、タイ及び台湾等におけるエンジニアリングデザイン教育の充実を展開した。[一部 1-(2)-4 の再掲]

1－(4)－6 自己点検評価への取組計画

○各種議事録を整えるなど、来年度に予定されている本校における「自己点検・評価報告書 第11報」刊行の準備を行う。

(実績報告)

○各種議事録を整えるなど、来年度に予定されている「自己点検・評価報告書 第11報」刊行の準備を行っている。

1－(4)－7 JABEE認定、機関別認証評価への取組計画

○来年度のJABEE認定の受審に対応すべく準備を行う。

○チームワーク力及びリーダーシップ加味したJABEEプログラム用「学習・教育目標」を学生等へ周知する。

○「学生が行う学習達成度評価の分析・評価」の報告書に基づき、その活用を検討する。

(実績報告)

○来年度のJABEE認定の受審に対応すべく第三者評価対応委員会で準備を行っている。

○チームワーク力及びリーダーシップを加味したJABEEプログラム用「学習・教育目標」を学生等へ周知した。

○「学生が行う学習達成度評価の分析・評価」の報告書に基づき、その活用を検討した。

1－(4)－8 インターンシップの実施計画

○国内外のインターンシップ先を開拓し、学生の派遣を実施する。

・本科生の海外インターンシップへの参加を推進する。

○「学外実習」において海外長期インターンシップが2年目を迎え、タイ及び台湾等におけるエンジニアリングデザイン教育の充実を展開する。[一部 1-(2)-4の再掲]

(実績報告)

○国内外のインターンシップ先を開拓し、学生の派遣を実施した。

・本科生の海外インターンシップへの参加を推進し、学生16人が5か国で実施した。

(専攻科) ○「学外実習」において海外長期インターンシップが2年目を迎え、タイ及び台湾等におけるエンジニアリングデザイン教育の充実を展開した。[一部 1-(2)-4の再掲]

1－(4)－9 企業人材等を活用した共同教育の取組計画

○国内外の企業・機関と共同してインターンシップを充実する。

・本科生・専攻科生の学外実習・実務訓練を継続する。

(専攻科) ○企業から招聘した非常勤講師を活用した実践的な技術を教授するためのカリキュラムについて検討する。

・高専機構の「企業技術者等活用プログラム」において、「地域技術者から学ぶものづくり技術(地域産業のニーズに根差した技術力伝承教育)」教育を継続する。

・専攻科生の長期海外インターンシップを推進する。

(実績報告)

○国内外の企業・機関と共同してインターンシップを実施した。

・本科生・専攻科生の学外実習・実務訓練を継続して実施した。

(専攻科) ○企業から招聘した非常勤講師を活用した実践的な技術を教授するためのカリキュラムの導入について検討し、実施した。

・高専機構の「企業技術者等活用プログラム」において、「地域技術者から学ぶものづくり技術(地域産業のニーズに根差した技術力伝承教育)」教育を継続して行った。

- ・専攻科生の長期海外インターンシップを推進した。

1－(4)－10 ICT活用教育に必要な構内情報基盤の整備計画

- 高専機構が推進している改革プロジェクトに連携し、eラーニング及びICT活用教育への取組みを検討する。
- ・高専機構が推進している改革プロジェクトに参加し、連携校として協力する。eラーニング及びICT活用教育への取組みを検討する。
- ・長岡技術科学大学のアドバンストコースに参加する。

(実績報告)

- 高専機構が推進している改革プロジェクトに連携し、eラーニング及びICT活用教育への取組みを検討し、次のとおり実施した。
- ・高専機構が推進している改革プロジェクトに連携校として参加した。また、Blackboardを取り入れるなど、eラーニング及びICT活用教育への取組みを検討した。
- ・長岡技術科学大学のアドバンストコースに参加し、受講学生を募り推進した。

1－(5) 学生支援・生活支援

1－(5)－1 メンタルヘルスについての取組計画

- 学生の心身の健康維持増進及び安全確保に関し、引き続き学内各組織の円滑な連携に努める。
- ・学生支援委員会、学生相談室及び学年会が連携し、1・3年生を対象として、心身の健康・安全に関する「心のケア講習会」を実施する。
- ・進路説明会において、保護者を対象とした「学生のメンタルヘルス」に関する講習会を開催する。
- ・保護者向け「メンタルヘルス講演会」を本校後援会（保護者の会）の要請に応じ実施する。
- ・学校指定の精神科医と連携し、学生相談体制の充実を図る。
- 学生が学生相談室を利用しやすい体制をさらに整備する。
- ・カウンセラーの勤務日数は現在週2日であるが、一つの事案に時間を要することが多く、相談希望も多いことから、カウンセラーが常駐できる体制の実現に向け検討を進める。
- ・担任、課外活動指導教員、教科担当教員及び寮担任等が連携し、問題を抱える学生の指導体制を構築し、様々な観点から学生を見守る。
- こころと体の健康調査の実施と、この結果に基づく情報を関係教員で共有し指導に当たる。
- ・平成26年度と同様に高専機構から示された『こころと体の健康調査（自殺予防のためのチェックリスト）』を、全学生を対象として実施する。
- ・上記調査の結果に基づき、問題を抱えた学生の情報を学年及び学科毎に共有し、専門のカウンセラーのアドバイスを仰ぎながら、学年及び学科、相談室、学生支援委員会が連携し見守りと指導を行う。状況により、カウンセラーと学生との面談も設定する。

(実績報告)

- 学生の心身の健康維持増進及び安全確保に関し、学内各組織の円滑な連携に努めた。
- ・学生支援委員会、学生相談室及び学年会が連携し、1・3年生を対象として、心身の健康・安全に関する「心のケア講習会」を実施した。この講習会において心理アンケート「心のセルフチェック」も行い、学生自らが今の心の状態について振り返った。
- ・進路説明会において、保護者を対象とした「学生のメンタルヘルス」に関する講習会を開催した。
- ・学生相談室及び学年会が連携し、5年生を対象として、最終学年におけるストレスへの対応に関する講演「新年度を迎えるにあたって」を実施した。
- ・学校指定の精神科医と連携し、学生相談体制の充実を図っている。

- ・授業公開日及び文化祭一般公開日に合わせて、保護者向けのカウンセラー特別相談会を実施した。
 - ・教職員を対象とした学生相談室ミニレクチャー及び学生相談研修会を実施した。
 - ・障がいを抱えた学生に対し担任及び必要な学内組織と連携し特別支援を推進した。
- 学生が学生相談室を利用しやすい体制をさらに整備した。
- ・カウンセラーの勤務日数を昨年度同様に週2日とした。
 - ・担任、教科担当教員、課外活動指導教員及び寮担任等が連携し、問題を抱える学生の指導体制を構築し、様々な観点から学生を見守っている。
- 寮では「何でも相談室」を定期的実施した。
- こころと体の健康調査の実施と、この結果に基づく情報を関係教員で共有し指導に当たっている。
- ・昨年度同様に高専機構から示された『こころと体の健康調査(自殺予防のためのチェックリスト)』を、全学生を対象として実施した。
 - ・上記調査の結果に基づき、学年及び学科毎に専門のカウンセラーによる教員へのアドバイス、指導のノウハウ及び問題を抱えた学生等の情報の共有を図り、担任、カウンセラー、学生相談室長、学生相談室員及び学生主事が連携して、指導を行っている。

1 - (5) - 2 就学支援・生活支援の取組計画

- 学生支援委員会において、経済情勢等を踏まえた上で、就学支援・生活支援を推進する。
- ・入学料・授業料免除、各種奨学金制度を活用した就学支援を積極的に行う。
 - ・入学料・授業料免除、各種奨学金の選考については、学生に免除制度や各種奨学金を周知し、公正で的確な選考を行う。

(実績報告)

- 学生支援委員会において、経済情勢等を踏まえた上で、就学支援・生活支援を推進している。
- ・入学料・授業料免除、各種奨学金制度を活用した就学支援を積極的に行っている。
 - ・入学料・授業料免除、各種奨学金の選考については、学生に免除制度や各種奨学金を周知し、公正で的確な選考を行っている。

1 - (5) - 3 キャリア形成支援についての取組計画（女子学生に対する取組を含む）

- 平成 24 年度から運用している進路支援室の充実とキャリア形成支援について引き続き検討を進める。
- ・進路担当主事補を中心に、低学年からの系統的なキャリア教育の支援体制を引き続き検討する。
 - ・3年生向けキャリア教育として、例年どおり企業・現場見学を行う。また、進路が確定した5年生による進路講話等を実施する。
 - ・4年生向けには、キャリアコンサルタントによるセミナー、進路講演会、面接セミナー、卒業生による講演会等を実施する。
 - ・4年生に対しては、年金説明会及び新社会人ワーキングセミナー等を実施する。
- 女子学生に対する取り組みについては、活躍する先輩等からの情報を収集し周知する。
- ・国内及び海外で活躍する卒業生等からの情報を本校ホームページや学園だより等で周知する。
 - ・本校女子学生からの情報や下級生に対するアドバイスについて、引き続き本校ホームページ、学園だより及び学生会活動等を通じスムーズに伝達する。

(実績報告)

- 平成 24 年度から運用している進路支援室の充実とキャリア形成支援について引き続き検討を進めている。
- ・進路担当主事補を中心に、低学年からの系統的なキャリア教育の支援体制を引き続き検討している。

- ・3年生向けキャリア教育として、例年どおり企業・現場見学を行った。また、卒業生による進路講話を実施した。
- ・4年生向けには、キャリアコンサルタントによるセミナー、進路講演会、面接セミナーを実施した。
- ・実施時期、内容等について、4年生に対する年金説明会及び新社会人ワーキングセミナーの実施を検討した。諸事情により実施には至らなかったが、来年度も引き続き検討する。
- ・工嶺祭（学園祭）において、地元企業による企業展を開催し、進路に対する学生の意識向上を図った。
- ・寮では、3年寮生を対象に進路講演会を実施した。
- 女子学生に対する取り組みについては、活躍する先輩等からの情報を収集し周知した。
- ・国内及び海外で活躍する卒業生等からの情報を本校ホームページや学園だより等で周知した。
- ・本校女子学生からの情報や下級生に対するアドバイスについて、引き続き本校ホームページ、学園だより及び学生会活動等を通じスムーズに伝達した。

1－（5）－4 高い就職率を確保するための取組計画

- 本校における企業情報、就職・進学情報などの提供・相談方法を含めたキャリア形成支援に係る体制について改善を試み、学生・教職員へ周知する。
- 本校における就職率は例年ほぼ100%となっている。この状況を今後も継続するための要点を昨年度整理し、「平成26年度進路指導状況報告書」として学生・教職員に周知した。今年度も同様の趣旨で報告書を作成し、学生・教職員に周知する。

（実績報告）

- 本校における企業情報、就職・進学情報などの提供・相談方法を含めたキャリア形成支援に係る体制について改善を試み、学生・教職員へ周知した。
- 本校における就職率は例年ほぼ100%となっている。この状況を今後も継続するための要点を整理した「平成27年度進路指導状況報告書」を取りまとめ、平成28年5月までには教職員に周知する予定である。

1－（5）－5 寄宿舍等の学生支援施設の整備計画

- 寄宿舍の防犯カメラのネットワーク化計画を検討する。
- 定員の増加に対応しきれない食堂のスペースの確保、男子寮の風呂のスペースの確保を検討する。
- 寮内における老朽化した設備について再点検・整備を検討する。

（実績報告）

- 寄宿舍の防犯カメラのネットワーク化計画を検討し、南側ネットワーク機器を更新した。北側については来年度に予算等を考慮して引き継ぎ検討していく。
- 定員の増加に対応しきれない食堂のスペースの確保、男子寮の風呂のスペースの確保を検討した。風呂のスペースの補完としてシャワー室を増設した。
- 女子寮の入寮希望者数の増加に伴う定員増に対応するための計画を推進し、男子の定員の一部を女子寮に転用した。
- 寮内の老朽化した設備について再点検し、食堂内厨房機器、電気錠などを更新した。

1－（6） 教育環境の整備・活用

1－（6）－1 施設マネジメントの取組状況

○第3期中期計画を基本に、施設マネジメント重視の観点から、教育と研究のポテンシャルを最大限に引き出し個性と魅力あふれる学校とするため、施設マネジメント重視の観点から、現有のキャンパスマスタープランの見直し・修正等を継続的に進める。

(実績報告)

○第3期中期計画を基本に、施設マネジメント重視の観点から、教育と研究のポテンシャルを最大限に引き出し個性と魅力あふれる学校とするため、現有のキャンパスマスタープランの見直し・修正等を継続的に進め、平成27年度版キャンパスマスタープランを作成した。

1-(6)-2 施設整備計画(耐震化,老朽化対策,キャンパスマスタープラン・バリアフリー計画の見直し等)

○毎年見直されるキャンパスマスタープランを踏まえつつ、グローバル人材創出のための教育の充実を支える施設整備計画を検討し、関連予算の獲得を目指す。

○今後多様化が想定される教育・研究に的確に対応しうる施設整備を図るため、その基礎データとなる学生・教職員等の利用度調査を実施する。

○電子情報工学科棟外壁の改修計画を進める。

○体育館の天井等の改修計画を進める。

(実績報告)

○毎年見直されるキャンパスマスタープランを踏まえつつ、グローバル人材創出のための教育の充実を支える施設整備計画を検討し、関連予算の獲得を目指した。

○今後多様化が想定される教育・研究に的確に対応しうる施設整備を図るため、その基礎データとなる学生・教職員等の利用度調査を実施した。

○電子情報工学科棟外壁の改修を完了した。

○体育館の改修計画を進め照明・バスケットゴールの改修を実施した。

1-(6)-3 環境配慮への取組計画

○電子情報工学科棟の空調整備を計画に基づきさらに推進する。

○学生寮の共用施設の照明のLED化を検討する。

○教室美化推進方法の検討と学校衛生基準確保のために設備利用方法を徹底し快適な教育環境の確保を行う。

○全校展開したグリーンカーテンの継続の検討を行う。

○平成25年度実施の『環境アイデアコンペ』の実施及び効果検証と新たに環境アイデアコンペを実施し環境マインドを育てる。

(実績報告)

○電子情報工学科棟の空調整備を計画に基づきさらに推進した。

○学生寮の共用施設の照明のLED化を検討した。

○校舎内空調設定温度を下げ、環境配慮を周知・徹底した。

○体育館の天井改修に伴い体育館内照明をLED化した。

○外灯のLED化を引き続き推進した。

○教室美化のため教室の清掃状況6項目・整理整頓10項目を評価する『教室美シュラン』コンテストを予備実施による問題検討後、3回実施した。全教室の結果をグラフ化して示すことで教室美化への意識向上がみられた。特に低学年の取り組みが良好であった。

○全校展開したグリーンカーテンを継続して実施した。朝顔の品種変更・土づくり・ネットの工夫により良く成長した。

○省エネ呼びかけとして「節電・節水・トイレ便座閉・扉閉」などの表示を行った。電力消費量の

過去最大値を超えそうなときに放送し協力依頼することを全教職員にメールで事前周知した。

1-(6)-4 男女共同参画に関する意識啓発等ワーク・ライフ・バランスを推進するための取組計画

- 新採用の女性教員も多いことから、女子職員の更衣室を女子教員も利用できるよう周知する。
- 今までも実施してきたが、産休、育休等の必要が出た時には制度を利用できるよう周知する。
- 平成 25 年度から実施している女性教員を新規採用した学科へのインセンティブ付与（研究費配分）を活用し引き続き女性教員の採用促進を図る。
- 男女共同参画セミナー「生と性の講習会（第3学年）」（長野市との連携事業）を開催する。

（実績報告）

- 採用により女性教員も多くなったことから、女子職員の更衣室（休憩設備あり）を女子教員も利用できるよう周知した。今後も環境整備等検討して行く。
- 産休、育休等が必要となった場合には制度を利用できるようグループウェアの掲示板に案内が掲載してある旨あらためて周知を行った。今後も制度等を定期的に分かりやすく周知していく予定である。
- 女性教員を採用した学科へのインセンティブ付与（研究費配分）を実施した。女性教員の研究設備充実等に活用されている。今後も継続して実施予定である。
- 男女共同参画セミナー「生と性の講習会（第3学年対象）」（11月、長野市との連携事業）を開催した。これから社会を担っていく学生の男女共同参画意識の啓発を図った（参加者 210名）。今後も継続して男女共同参画意識の促進・普及活動を行っていく予定である。

1-(6)-5 その他

- 学生寮の風呂環境に関する寮生を対象としたアンケート調査を実施し、今後の方向性を検討する。
- 学生寮での国際交流圏で、留学生や国際交流ステイ学生との交流促進のための生活環境改善意見交換を実施・その内容について環境整備の改善等を検討する。
- 前年度に設置した国際交流図書コーナーについて、引き続き図書を購入し、より一層の充実を図る。
- 新入生図書館ガイダンスを早期に実施し、利用の増加を図る。
- 図書館購入雑誌に関するアンケート調査を実施し、購入雑誌の見直しを行う。

（実績報告）

- 学生寮の風呂環境に関するアンケート調査を寮生を対象に実施し、今後の方向性を決定した。
- 学生寮の国際交流圏で、留学生や長期短期国際交流ステイ学生との交流促進のため、生活環境の改善に関する意見交換を実施し、生活環境等の改善を検討し施設の改修を実施した。
- 女子寮に新たに AED を設置した。
- 図書館の国際交流図書コーナーの充実のため、図書 23 冊を新たに購入した。海外留学の検討、日本文化を英語で紹介する際などに活用されている。
- 新入生図書館ガイダンスを、例年の 5 月から 4 月に前倒しして実施した。その結果、4 月の貸出数が前年比 2.18 倍に増加した。
- 図書館購入雑誌に関するアンケート調査を、1 月から 2 月にかけて実施した。結果をもとに、次年度に購入雑誌の見直しを行う。

【2. 研究に関する事項】

2-1 外部資金獲得への取組計画

- 科学研究費補助金の申請数及び採択件数を増加するための施策を引き続き検討し、実施する。
- 教員の研究活動を把握し、これをもとに各種助成事業への応募を促す。
- 大学等と連携して、外部資金の獲得を目指す。

(実績報告)

- 科学研究費補助金について、次のような施策を実施した。
 - <採択件数増加>
 - ・外部講師を招き「科研費獲得の方法とコツ」セミナーを開催した。(6月10日)
 - ・研究計画調書添削支援プロジェクト(メンバー16名)を発足し、コーディネータ2名、学内教員2名、外部支援者1名による研究計画調書の添削指導を実施した。(7月1日～11月6日)
 - ・『研究計画調書の点検・改善策のスキル養成(DVD)』『採択される科研費申請(書籍)』『科研費採択のコツ』を購入し校内で随時貸出した。
 - <申請率向上>
 - ・全教員が申請することを「基本」とすることを校内に通知した。
 - ・全教員へ個別の申請状況のヒアリングと申請の検討を依頼した。
- グループウェアへ各種助成事項の公募内容を随時掲示した。
- 信州大学と押田教授(電子情報工学科)との連携による革新的技術創造促進事業を獲得した。

2-2 産学連携についての取組計画

- 本校の機器シーズ集をより使いやすく分類・作成して公表することにより、学内外からの機器の利用を促進し、共同研究につなげる。
- コーディネータを活用し、産学連携を促進する。
- 地域企業との交流を活性化させ、産学連携を促進する。

(実績報告)

- 本校の機器シーズ集の構成を見直し、分かりやすく分類を行った。
- コーディネータの定期相談会の開催日を設定し、企業からの相談をしやすくした。
- 地域企業と協同した地域活性化協議会を3回実施した。

2-3 知財管理についての取組計画

- 弁理士に依頼して、教員の特許執筆の指導を受け、特許発掘を行う。
- 出願した特許の申請の審査を行い、取得特許の活用促進を検討する。

(実績報告)

- 弁理士による教員の特許明細書執筆の個別指導を実施(7月, 9月, 10月, 11月, 12月, 1月, 2月, 3月)
- 出願した特許の審査請求判断のため、信州 TLO による特許ヒアリングを実施(10月, 11月, 3月)

2-4 地域技術者育成への貢献(社会人の学び直し等)

- 地方公共団体、経済団体等と連携して社会人の学び直しの講座を実施し、社会ニーズに合わせた講座の充実を行う。
- 産学連携及び共同研究成果の発表会を実施して公開する。

(実績報告)

- 地方公共団体，経済団体等と連携して社会人の学び直しの講座を実施し，社会ニーズに合わせた講座の充実を行う。
- 産学連携及び共同研究成果の発表会を次のとおり実施した。
 - ・「信州産学官連携機構新技術説明会」(8月4日)に，電子制御工学科・中山准教授が発表
 - ・「イノベーション・ジャパン2015 - 大学見本市」(8月27日及び28日)に，電気電子工学科・大澤教授，技術室・佐藤技術専門職員が出展した。(水流からのエネルギー回収効率を高めた開水路用水車)
 - ・「イノベーション・ジャパン2015 - 大学見本市」(8月27日及び28日)に，電子制御工学科・中山准教授が出展及び発表を行った。(高周波線路の表皮効果抑制・低損失化技術 ～負の透磁率利用～)

2-5 小中学校と連携した理科教育支援への取組計画

- 出前授業についての内容の精査等を行い，継続して実施する。

(実績報告)

- 出前授業についての内容の精査等を行い，49件実施した。

2-6 地域共同テクノセンター等の活用計画

- 地域共同テクノセンターを中心に，研究協力・産学連携係と連携して，技術相談，評価試験，共同研究，受託研究を実施し，外部資金の獲得を促進する。
- 各種産業展に参加し，PRを図る。

(実績報告)

- 地域共同テクノセンターを中心に，研究協力・産学連携係と連携して，共同研究等を次のとおり実施し，外部資金の獲得を図った。
 - ・共同研究 29件，受託研究 7件，寄附金 31件，技術相談 25社 48件
- 各種産業展に参加し，PRを図った。

2-7 その他

- 県内各所で開催される産業フェア等に積極的に出展する。
- スカイパーク科学館，長野高専キッズサイエンスを企画し，実施する。
- 主管校として開催する全国高専プログラミングコンテストの学校企画として科学イベントを企画し実施する。
- 長野市立図書館との連携貸出サービスについて，実現に向け引き続き協議を進める。
- 図書館講演会を開催し，長野高専及び図書館利用について，一般市民へPRを図る。

(実績報告)

- 県内各所で開催される産業フェア等に積極的に出展した。
- 地域の小中学生の理科教育の一環として，スカイパーク科学館を8月に，長野高専キッズサイエンスを11月に実施した。
- 主管校として，10月に開催した全国高専プログラミングコンテストにおいて，学校企画として科学イベントを企画・実施した。
- 長野市立図書館との連携貸出サービスについて，引き続き協議を進めている。
- 図書館講演会(7月10日及び11月21日)を開催し，94名(うち学外者71名)の参加があった。入学案内等を配布し，長野高専及び図書館利用について，一般市民へのPRを図った。

【3. 国際交流等に関する事項】

3-1 国際交流協定の締結

- クアラルンプール大学 (UniKL) との交流協定の締結を検討する。
- 国際交流協定締結校との交流を実施する。
- 海外教育機関との学術交流協定締結の可能性を調査する。

(実績報告)

- マレーシアのクアラルンプール大学 (UniKL) との国際交流協定を8月に締結した。
- 国際交流協定締結校との交流を実施した (受入: 7月タイ: チョンブリ, スラナリカレッジ, 台湾: 10月台北科技大学, 香港: 5~7月香港 IVE, シンガポール9~10月, 派遣: 8月台北科技大学, 香港 IVE, 10月泰日工業大学, 台湾聯合大学, 3月シンガポールポリテクニク)。
- 海外教育機関との国際交流協定締結の可能性を引き続き調査している。(UniKL との締結に至った。)

3-2 学生の海外派遣計画

- 学生の海外渡航を推進する。
 - ・学生の国際会議への参加を推進する。
 - ・学生の海外研修を推進する。
- 学生の機構主催の海外インターンシップへの参加を推進する。

(実績報告)

- 学生の海外渡航を推進している。学校で把握しているだけでも42名が国際会議, 海外研修に参加した。
 - ・学生の国際会議への参加を推進した。
 - ・学生の海外研修を推進した。
- 機構主催の海外インターンシップへの学生の参加を推進すべく, 案内を周知した。

3-3 留学生の受入体制の強化計画 (留学生用の居室整備またはこれに類するものを含む)

- 留学生の受入れ体制の強化のため, インフラ整備の検討を行う。
 - ・グローバル人材創出センター棟 (国際交流) の設置を検討し, 予算を要求する。

(実績報告)

- 留学生の受入れ体制の強化のため, インフラ整備の検討を行う。
 - ・グローバル人材創出センター棟 (国際交流) の設置を検討し, 予算を要求した。

3-4 外国人留学生に対する研修の実施計画

- 外国人留学生に対する研修の実施計画を策定する。
 - ・留学生との意見交換会を実施する。
 - ・留学生の研修旅行を実施する。
 - ・留学生とチューターとの交流を充実する。

(実績報告)

- 外国人留学生に対する研修等を次のとおり実施した。
 - ・留学生との意見交換会を実施した。参加者: 第1回50名, 第2回42名。
 - ・留学生の研修旅行 (12月, 金沢市) を実施した。参加者: 9名。
 - ・留学生とチューターとの交流が充実するように, 説明会 (4月) を開催した。参加者: 16名。
 - ・地域の警察署による留学生の生活上の注意事項の研修 (7月) を実施した。参加留学生4名。

【4. 管理運営に関する事項】

4-1 危機管理への対応

- 学生及び教職員に対する危機管理の改善を推進する。
 - ・安全管理意識を年度早期に徹底するため、総合防災訓練を年度早期（6月）に実施する。
 - ・定期的に校内安全衛生巡視を実施し、改善を要する事項について迅速に対応する。
 - ・防災備蓄倉庫の備蓄状況を定期的に確認し、必要に応じて更新・補充する。
- リスク管理室において、緊急対応等が必要な事態の発生に備えるとともに、発生又は発生することが予測される事態に伴う危機に対して、迅速かつ的確に対処する。

(実績報告)

- 学生及び教職員に対する危機管理の改善を推進する。
 - ・安全管理意識を年度の早期に徹底するため、総合防災訓練の実施を6月に計画した。なお、実施日・予備日（7月）とも雨天により中止となった。
 - ・定期的に校内安全衛生巡視を実施し、改善を要する事項について迅速に対応している。
 - ・防災備蓄倉庫の備蓄状況を定期的に確認し、必要に応じて更新・補充している。
- リスク管理室において、緊急対応等が必要な事態の発生に備えるとともに、発生又は発生することが予測される事態に伴う危機に対して、迅速かつ的確に対処している。

4-2 校内の監査体制、監事監査・内部監査及び高専相互会計内部監査の指摘・改善等への対応

- 各種監査の指摘・改善等に的確に対応するため、会計担当職員の資質・能力の向上を目的として、高専機構主催の研修会等はもとより監査法人所属の公認会計士等による専門的な研修会及び信州大学等他機関が主催する研修会等へ積極的に参加する。また、参加者による報告会を開催し、他職員へ研修事項のフィードバックを図る。

(実績報告)

- 各種監査の指摘・改善等に的確に対応するため、会計担当職員の資質・能力の向上を目的として、下記の高専機構主催の研修会等及び信州大学等他機関が主催する研修会等へ参加している。また、参加者による報告会を開催し、他職員へ研修事項のフィードバックを図っている。また、監査法人トーマツの公認会計士による専門的な研修会を本校において開催した。（12月18日）
 - ・信州大学法人会計研修（エキスパートコース）
 - ・信州大学財務会計実務研修

4-3 公的研究費のガイドラインに対する取組措置状況

- コンプライアンス意識向上と使用ルールの徹底を図るため、教職員に対し公的研究費の不正使用防止に関する説明会を継続的に開催し出席率を100%とする。また、新任教職員には、採用時オリエンテーションで周知を図る。その際、アンケートによりその結果を分析し説明内容の改善を図る。
- 公的研究費使用マニュアルを学校内専用サイトに掲載し、教職員が常時内容確認の可能な環境とする。

(実績報告)

- コンプライアンス意識向上と使用ルールの徹底を図るため、教職員に対し公的研究費の不正使用防止に関する説明会を開催し（4月27日、5月15日、6月9日、6月12日、7月28日）、出席率を100%とした。また、新任教職員には採用時オリエンテーションを開催し（4月2日、4月27日、7月2日）、周知を図った。その際行った記名式アンケートにより理解度を分析した結果も踏まえ説明内容の改善を図り、改めて平成28年3月23日、3月24日、3月25日に説明会を開催した。

○公的研究費使用マニュアルを学校内専用サイトに掲載し、教職員が常時内容確認の可能な環境とした。

4-4 教職員の服務監督・健康管理・コンプライアンス意識の向上に関する取組計画

○定期健康診断及び人間ドックの受診を徹底する。
○コンプライアンス意識の向上を図る。
・全教職員を対象として、コンプライアンスに関するセルフチェックを実施する。
・セルフチェックの結果を確認し、回答内容に応じて適切な助言等を行う等で、全教職員のコンプライアンス意識の向上を図る。

(実績報告)

○定期健康診断及び人間ドックの受診の徹底を図り、全対象者が受診した。
○全教職員を対象として、コンプライアンスに関するセルフチェックを実施した。また、セルフチェックの結果を確認し、回答内容に応じて適切な助言を行い全教職員のコンプライアンス意識の向上を図った。

4-5 職員に対する研修の実施・参加計画（国，地方自治体，国立大学，企業等が実施する研修等の活用を含む。）

○高専機構主催の能力向上に資する研修会に積極的に参加する。
○国，地方自治体，国立大学法人，民間等外部団体主催の研修会の情報収集を行い，業務に関する知識及び技能の向上に資すると認められる研修会への参加を促進する。

(実績報告)

○高専機構主催の研修会へ適任者・対象者を業務に優先して参加させた。
○人事係において研修情報を常に把握しながら，研修内容に応じて，グループウェア等で広く情報提供している。また，業務に関する知識及び技能の向上を図るため，次の研修に参加した。次年時以降も計画的に参加させていく予定である。
・信州大学：初級スキル・マネジメント養成研修，リーダー研修，部下指導・育成研修等
・文部科学省主催：公共工事入札契約適正化法等に関する講習会
・JASSO 主催：障害学生支援実務者育成研修会（看護師）
・総務省：情報システム統一研修1

4-6 人事交流計画

○本校独自採用の事務職員を含めた信州大学との人事交流を継続する。
○平成26年度に制度化された高専間職員交流制度の活用を検討する。
○本校独自採用の事務職員の定期的な内部異動計画を，職員の要望や適性等に留意しつつ，幅広いキャリアが育まれるよう引き続き検討・実施する。

(実績報告)

○信州大学との協議により，4月1日付けで4名の事務職員の人事交流を継続実施した。また，プロパー職員（1名）の平成28年4月1日付け採用を内定した。
○高専間職員交流制度について，希望者が潜在的にいるので，受入側との組織上のマッチングの問題等の課題を踏まえ，引き続き実現に向けて検討している。
○平成28年4月1日付けの人事異動については，職員の要望や適性等に配慮しつつ，幅広いキャリア形成を育むため，総務課と学生課間で若手職員を各1名配置換することとした。次年時以降も同様な人事異動計画を検討する。

4-7 資産の有効活用方策, IT 資産の管理

- 地域住民, 外部団体等からの申請により, 体育施設, 教室等を貸与する。
- 継続して図書館の夜間開館を実施する。
- ソフトウェアライセンス管理を適正に行い, 機構本部が有する I T 資産管理システムへの登録を継続的に行う。

(実績報告)

- 本校施設等がより有効的に活用が図られるよう地域住民, 外部団体等からの申請に基づき, 体育施設, 教室等の貸与を 51 回行った。
- 情報教育センター主導のもと, 高専機構の方針等に則り, ソフトウェアライセンスの適正管理及び I T 資産管理システムへの登録を行っている。

【5. 業務運営の効率化に関する事項】

5-1 一般管理費の縮減取組計画

- 高等専門学校設置基準により必要とされる最低限の教員の給与相当額及び各年度特別に措置しなければならない経費を除き、高専機構の数値目標に沿って、一般管理費（人件費相当額を除く。）については3%、その他については1%の効率化を図る。
- 予算の有効活用のための方策を検討し、予算配分方針を定める。
- 学内営繕等については、緊急性・必要性等を学内委員会等に諮ったうえで、優先度の高いものから実施し、施設保全管理の効率化に努める。

（実績報告）

- 高等専門学校設置基準により必要とされる最低限の教員の給与相当額及び各年度特別に措置しなければならない経費を除き、高専機構の数値目標に沿って、一般管理費（人件費相当額を除く。）については3%、その他については1%の効率化を図った。
- 学内執行会議及び運営会議において予算の有効活用のための方策を検討し予算配分方針を定めた。
 - ・平成27年度予算配分に際しては、光熱費を主とした施設の適切な維持を図るため、教員研究費を前年度比40%を削減し、当該経費等の確保に努めた。
 - ・教育・研究活動を適切に推進するため、経費必要性を踏まえて、校長裁量経費から効果的に配分を行った。
- 学内営繕等については、各学科からの要望を基に建物修繕状況一覧表を作成し、緊急性・必要性等を施設専門部会に諮った上で、優先順位の高いものから営繕を実施することで保全管理の効率化を図ることができた。

5-2 随意契約の見直し状況

- 業務運営の効率性及び国民の信頼性の観点から、引き続き、契約に関しては一般競争入札とすることを原則とし、随意契約についての見直しを図り、予算や資源の有効活用に努める。

（実績報告）

- 契約に関しては、原則として一般競争入札とした。やむを得ず随意契約とした場合にあっては、適正な予定価格の算定に留意し、予算や資源の有効活用に努めた。